

**本時の主張**

本時は、自分たちにできそうなボランティアについて、〇〇さん（地域人材）から学んだ大事なことをもとに、学校生活上の具体的な場面と行動を考え、友達と意見交流することを通して、自分たちにもちょっとしたボランティアならできるとに気づき、これから取り組むボランティアを決める授業である。

子どもは、前時まで、毎日登下校の見守りボランティアをしてきている〇〇さんのビデオメッセージをもとに、ボランティアの意味やすばらしさについて理解をしている。しかし、それは〇〇さんだからできることであって自分にはできないことだと考えていることが予想される。また、自分もボランティアに取り組んでみたいけれど、何をどうしたらよいか分からない子どもがいることも考えられる。

そこで、次の手立てを講じることにする。

【手立て1】学習課題を自分事として捉えさせるために、前時に学習した〇〇さんの行動のすばらしさと今の自分の行動を比較させる。

【手立て2】自分たちにできそうなボランティアについて、考えを深めたり広めたりできるように、視点を与えて考えさせ、その内容を班と全体で交流させる。

【手立て3】自分に合った意思決定ができるように、振り返りの場面において、記述することを明確にした発問をする。

これらの手立てにより、子どもは、〇〇さんのようなボランティアを毎日継続して取り組むことは難しいけれど、学校生活において自分にもできそうなことはある、という視点で思考を深めていくことができる。そして、話し合い活動を通して、「自分に合ったボランティアはどれか。」「自分が続けていけるものはどれか。」「無理なくやっていけそうなものはどれか。」と考えながら、自分に合ったボランティアを意思決定しようとする。

## 1 題材名 ボランティアから生まれる新しい自分

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現  
イ 社会参画意識の醸成と働くことの意義の理解

## 2 題材の目標

ボランティアについて、登下校見守りボランティアの〇〇さんの思いや願いを聞いたり、今の自分にできそうなボランティアについて話し合ったりすることを通して、ボランティアの意味やすばらしさが分かり、自分にできそうな行動目標を意思決定し、これからも人のために自ら進んで行っていこうとする態度を養う。

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ ボランティアは人のためになるだけでなく、「誰かの役に立っている」という自分自身の喜びにもなることに気付き、人のためにも自分のためにもボランティアは大切であることを理解している。	・ 話し合い活動を通して、友達の意見を参考にしながら、学級や学校の生活向上につながる自分にできそうな行動目標を考え、実行することができる。	・ これまでの自分自身の生活態度を見つめ直し、集団の一員として、これからも自ら進んで学級や学校の生活向上に貢献しようとする前向きな気持ちをもつことができる。

### 4 題材の指導構想

#### (1) 児童の実態

学習したことや話し合っただけで決めたことに素直に取り組むことのできる子どもが多く、その雰囲気自分たちでも気持ちよく感じて過ごしている。互いに声をかけ合い、教え合ったり助け合ったりして活動する様子も見られる。多くの子どもが、「自分たちは最高学年だから、縦割り班や町内子ども会などで集まった時には、先頭に立って下学年をリードしていきたい」とも考えている。

また、子どもたちは今のクラスのよい所を「男女の仲が良く、協力したり助け合ったりして活動できる場所」「時間を守り、けじめをつけて行動できる場所」「笑顔が多い場所」と挙げている。年度当初より、様々な友達関係のトラブルもあったが、互いの思いを伝え合ったり、相手の気持ちを考えたりすることで解決を図ってきた。過去のトラブルからうまく交流できなかったり、すぐにトラブルに発展したりする関係の子どももいるが、同じクラスの仲間として、必要以上に意識をすることなくかかわることができるようになってきた。「今の6-1のよい場所は何だと思えますか？」の問いに、全員が肯定的な内容を答えることもできた。

一方で、決まっていることや自分の役割には自覚と責任をもって取り組むものの、自分から主体的に行動できないところに弱さが見られる。「朝登校して黒板が汚れていたらどうしますか？」と問うと、多くの子どもが「きれいにします。」と答え、「誰か黒板をきれいにしてくれませんか？」と頼むと、行動に移してくれる子どももいる。だが、汚れている黒板を見て、「この状態ではみんなが困るから、今のうちにきれいにしておこう。」と考え行動できる子どもはほとんどいない。その理由としては、「誰かがやってくれるから」と人任せの気持ちが生じたり、「自分の仕事ではないから」と一歩踏み出す勇気がもてなかったりすることが考えられる。

#### (2) 本題材設定の理由

子どもは、主体的に行動できないところに弱さがあるものの、決して「自分だけが良ければよい」と考えているわけではない。それどころか、最高学年として全校のためになりたい、学校をよりよしたいと考えている子どもが多い。そのような子どもたちに、ボランティアは、人のために役立つだけでなく、自分自身の喜びにもつながることに気付かせることで、「人のためになりたい」という気持ちを、実際の行動に移すきっかけにすることができる。そして、意思決定した内容を実践する中で、実践状況を話し合っただけで感じたことを共有したり、活動記録をもとに振り返ったりすることを通して、人のために主体的に行動することが自己の成長にとっても有意義であることを実感させていきたい。

子どもにとって学級は最も身近な社会であり、学級の集団活動に主体的に参画することは、地域や社会への参画、社会貢献にもつながる。「誰かがやってくれるだろうから」と人任せの気持ちが強い子どもや、「自分の仕事ではないから」と一歩踏み出す勇気がもてない子どもにとって、主体的に行動しようとする態度を養うことは、特別活動で育てる資質・能力の重要な視点の一つである「社

会参画」からも重要な内容であると考え。

「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点である。社会参画に必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれると考えられる。

(小学校学習指導要領解説 特別活動編 P12 より)

### (3) 本題材とキャリア教育で育成すべき力「もと礎的・汎用的能力」の関連

中央教育審議会（答申）において、キャリア教育で育成すべき「もと礎的・汎用的能力」は【人間関係形成・社会形成能力】【自己理解・自己管理能力】【課題対応能力】【キャリアプランニング能力】の4つの能力で構成されていると説明している。特に本題材では、学級の現状把握から振り返りまでの一連の学習活動を通して、【自己理解・自己管理能力】と【キャリアプランニング能力】の2つに力の育成を図りたいと考える。本題材における【自己理解・自己管理能力】と【キャリアプランニング能力】具体的な姿を以下のように設定する。

#### ○自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、自分自身の可能性を信じて主体的に行動すると同時に、今後の成長のために進んで学ぼうとすることができる。

#### ○キャリアプランニング能力

「相手のために進んで行動することが自分の喜びにもなる」ことを理解し、集団の一員として自分らしさを生かして主体的に判断をして行動することができる。

### (4) 指導の構想

子どもは、ボランティアという言葉は知っているものの、その意味や価値、すばらしさについては十分に理解をしていない。そこで、事前活動として、登下校見守りボランティアの〇〇さんからのメッセージをもとにボランティアについての理解を深めるとともに、ボランティアに対する肯定的な気持ちを高められるようにする。

〇〇さんは、登下校の見守りボランティア以外にも、様々な場面で子どもとかかわりがあり、誰もが知っている存在である。毎日見守ってもらい、時には声をかけてもらったり助けてもらったりしている〇〇さんの言葉は、子どもたちに実感を伴って響くはずである。〇〇さんには、事前に「見守りボランティアを始めるきっかけ」や「どうして続けているのか」、「見守りボランティアをして、よかったことや嫌だったこと」などの質問に答えてもらう。そして、このビデオメッセージをもとに、子どもは、〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさを話し合うことを通して、ボランティアの意味や価値を理解することができると思う。

ボランティアには様々な原則があるが、子どもには「自主性（自分から進んで行く）」「社会性（人や社会のためになる）」「相互理解（相手も喜び、自分もうれしい）」の3つが大切であることを捉えさせる。特に「相互理解」の視点を取り入れることで、子どもに、ボランティアは「ありがた迷惑」な行為でも「嫌々する」行為でもないこともつかませたい。

本時の話し合い活動では、〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさを視点にして、自分たちにもできそうなボランティアはないかを考えさせる。友達の考えを聞いたり、実際にできるのかどうか話し合ったりすることを通して、「それもいいね。それもできそうだね。」と子どもたちが考えを広げられるようにする。そして、話し合ったことを生かして、学校生活上の具体的な場面と行動を考え、自分にできそうなボランティアを意思決定させる。

実践場面では、本時で意思決定した内容に一人一人が取り組む。ボランティアの原則や〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさなどを拠り所に、実践状況や取り組んでいる時の気持ちなどを共有す

る。うまくいったことやよくできたことなどを積極的に取り上げることで、子どもたちの意欲や達成感の高まりにつなげたい。

事後活動では、一連の学習を想起させるとともに、実際に自分のできたことや感じたことを振り返らせる。そして、「人のためになるのは気持ちがいい。」「相手が喜ぶ姿を見て、自分もうれしくなった。」などの感想を子ども同士で共有させる。教師も、〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさを視点に励ましや評価をする。このことにより、子どもたちに「これからも続けよう。」「他にもできることはないかな。」と前向きな気持ちをもたせたい。

## 5 題材の指導計画（全3時間）

活動（時間）	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価			
		知	考	態	評価規準
事前活動 ・学級の現状把握 と問題の発見 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇〇さんがしている見守りボランティアについて、その行動や気持ちのすばらしさを話し合うことを通して、ボランティアの意味や大事な視点について理解することができる。</li> <li>・〇〇さんへのインタビュービデオを視聴し、〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさについて話し合う。</li> </ul>	○	○		〇〇さんの行動や気持ちのすばらしさを話し合うことを通して、ボランティアの意味や大事な視点を理解することができる。
話し合い活動【本時】 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちにできそうなボランティアについて、〇〇さんから学んだ大事なことをもとに、学校生活上の具体的な場面と行動を考え、友達と意見交流すること通して、自分たちにもちょっとしたボランティアならできると気づき、これから取り組むボランティアを決めることができる。</li> <li>・自分たちにできそうなボランティアについて自分の考えをもつ。</li> <li>・できそうなボランティアについて、班や全体で紹介し合う。</li> <li>・これから自分が取り組んでいくボランティアを決める。</li> </ul>		○	○	これから自分が取り組んでいくボランティアを決めて、そのボランティアに決めた理由を考えることができる。
決めたことの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意思決定した具体的な個人目標に、粘り強く取り組むことができる。</li> <li>・友達と協力したり、取り組んだ成果や課題を共有したりしながら行動する。</li> </ul>			○	意思決定した内容を自覚し、自主的に行動することができたか。
事後活動 ・振り返り (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践を通してボランティアのよさに気づくとともに、集団の一員として、これからも進んで学級や学校のために行動していこうと前向きな気持ちをもつことができる。</li> <li>・うまくできたことやうまくいかなかったこと、改善策や工夫できそうなことを話し合う。</li> <li>・ボランティアをした時の自分の気持ちや相</li> </ul>	○	○		これからも進んで学級や学校のために行動していこうという前向きな気持ちをもつことができたか。

	手の様子を共有する。				
--	------------	--	--	--	--

## 6 本時の計画（2時間目／全3時間）

### （1）本時のねらい

自分たちにできそうなボランティアについて、〇〇さんから学んだ大事なことをもとに、学校生活上の具体的な場面と行動を考え、友達と意見交流することを通して、自分たちにもちょっとしたボランティアならできると気づき、これから取り組むボランティアを決めることができる。

### （2）本時の構想

子どもが、本時のねらいである「これから取り組んでいくボランティア」について、「自分に合ったボランティアはどれか。」「自分が続けていけるものはどれか。」「無理なくやっつけようなものはどれか。」と考えながら、自分に合った内容を意思決定できるように以下の手立てを講じる。

#### 【手立て1】

学習課題を自分事として捉えさせるために、前時に学習した〇〇さんの行動のすばらしさと今の自分の行動を比較させる。

子どもが、「自分たちにはどのようなボランティアができるだろうか。」という課題を自分事として捉えることができるように、子どものために自分の意志で見守りボランティアをしている〇〇さんの行動と、決められた仕事や役割に取り組んでいる自分たちの行動を比較させる。

このことにより子どもは、人のためになる行動でも、与えられたものではなく、状況に応じて自分で考えたり見つけたりして取り組むことのすばらしさに気付くことができる。そして、毎日の登下校見守りボランティアのような大きなことはできなくても、自分たちにできるボランティアはないかと問題意識を高めることができる。

#### 【手立て2】

自分たちにできそうなボランティアについて、考えを深めたり広めたりできるように、視点を与えて考えさせ、その内容を班と全体で交流させる。

自分たちにできそうなボランティアについて、考えを深めたり広めたりできるように、前時のまとめでもある「〇〇さんの行動のすばらしいところ」を視点に考えさせる。「〇〇さんの行動のすばらしいところ」は、自分から人のために行動していること、継続していること、自分自身のためにもなること、などを子どもの言葉でまとめておく。

このことにより子どもは、今までの学校生活や自分自身の経験を振り返り、人のためになる行動の中から、「続けて行うことができるか。」「自分の喜びにもなるか」という視点をもって考えようとする。また、この視点をもとに、班や全体での意見交流を行うことで、「それもいいね。」「それもできそう。」と自分の中に新たな考えを取り入れたり、「そのボランティアもいいと思うけれど、自分には合わないかな。」と判断したりできるようになる。交流場面での考えの深まりや広がり、が、「これから自分がやろうと思うボランティア」を意思決定する際の拠り所となるようにする。

#### 【手立て3】

自分に合った意思決定ができるように、振り返りの場面において、記述することを明確にした発問をする。

友達の考えを参考にしながらも、自分に合った意思決定ができるように、振り返りの場面に

において、『話し合ったことを生かして、「自分がこれからやろうと思うボランティア」と「そのボランティアに決めた理由」をノートに書きましょう。』と発問する。「自分がこれからやろうと思うボランティア」と「そのボランティアに決めた理由」は板書もする。

そのことにより子どもは、1時間の学びを振り返りながら、「自分に合ったボランティアはどれか。」「自分が続けていけるものはどれか。」「無理なくやっつけようなものどれか。」など決めた理由を明確にして、これから取り組んでいくボランティアを決めることができる。

### (3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価・○留意点
<p><b>導入</b></p> <p>1【つかむ】</p> <p>前時を振り返り、課題を自分事として捉えることで学習課題を設定する。(5)</p>	<p>T1 この人は誰だか覚えていますか。</p> <p>C1 見守りボランティアをしてくれている〇〇さんです。</p> <p>C2 私たちの登下校を毎日見守ってくれています。</p> <p>T2 それは仕事でしたか。</p> <p>C3 いいえ。自分から進んでやってくれているボランティアでした。</p> <p>T3 そうでしたよね。みんなはそんな〇〇さんのどんなところをすごいと感じたのですか。</p> <p>C4 自分から進んで人のために行動しているところです。</p> <p>C5 10年も続けているところです。</p> <p>C6 人のために行動しているけれど、喜んでくれる人がいるから自分もうれしいと感じているところです。</p> <p>T4 これは、私たちが〇〇さんから学んだ大事なことですよ。みんなも〇〇さんみたいなボランティアできますか。</p> <p>C7 今はできません。</p> <p>C8 〇〇さんと同じようにはできません。</p> <p>T5 「同じようには」とはどういうことですか。</p> <p>C9 どんな日でも毎日すること。</p> <p>C10 登下校の時に見守りのボランティアをすること。</p> <p>C11 でも、登下校はできないけれど、学校に来てからならできることもありそうだよ。</p> <p>C12 そうだよ。休み時間や掃除の時にできることはありそうだ。</p> <p>T6 自分たちにもできるボランティアもありそうだと考え始めているんだね。</p> <p>C13 そうです。</p> <p>T7 では今日は、自分たちにはどのようなボランティアができるだろうか？を学習課題にしてみんなで考えてみませんか。</p> <p>C14 はい。そうしたいです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【学習課題】</b></p> <p>自分たちにはどのようなボランティアができるだろうか？</p> </div>	<p>○前時に学習した内容を教室壁面に掲示しておくことで、本時の中でいつでも立ち返ることができるようにしておく。</p> <p>○学習課題を自分事として捉えさせるために、前時に学習した〇〇さんの行動のすばらしさと今の自分の行動を比較させる。【手立て1】</p> <p>○〇〇さんのような行動がとれたらいいなと前向きに捉えられように展開する。</p> <p>○T6で「自分たちにも何かできそうだ」という気持ちの変化を価値付ける。</p> <p>○T7で子どもの言葉をもとに学習課題を投げかける。</p>

<p><b>展開</b></p> <p>2【さぐる】</p> <p>これまでの自分の行動を振り返りながら、学習課題について自分の考えをもつ。</p> <p>(10/15)</p>	<p>T8 ○○さんのようにはできなくても、自分たちにもできそうなボランティアはどんなものでしょうか。そんなボランティアができるのは、どんな場面ですか。</p> <p>C15 「掃除」の時間に、いつもの掃除だけでないことができそう。</p> <p>C16 それだったら「給食準備」の時にもできることがありそう。給食当番ではない人が特にできる。</p> <p>T9 例えば、「掃除」の時間だったら、どんなボランティアが考えられますか。</p> <p>C18 特に汚れている場所があったら、そこを水拭きしてきれいにする。</p> <p>C19 掃除する教室に、はがれそうな掲示物がたまにあるけれど、それを直しておくこともできる。</p> <p>T 汚れの多い所を水拭きしたり、掲示物を直したりするとどうなりますか。</p> <p>C 教室がきれいになって気持ちよくなる。</p> <p>C20 何をしたらいいのか分からなくて困っている1年生に「一緒に○○しよう」と声をかけるのはどうかな。</p> <p>C21 声をかけるって、ボランティアになるのかな。</p> <p>C22 ボランティアだと思う。1年生のために、自分から声をかけているから。声をかけられた1年生はきつとうれしいと思う。</p> <p>T 1年生はきつとうれしい気持ちになり、その様子を見てみんなもうれしい気持ちになりそうですね。</p> <p>C 自分も相手もうれしいにつながる。</p> <p>T11 では、ノートに「どんな時に」「何をするか」「そうするとどうなるか」について自分の考えを書いてみましょう。</p>	<p>○いくつかの場面を取り上げることで、どんな場面でもボランティアができることをつかませる。</p> <p>○個人思考での見通しにつなげるため、「どんな時」「何をするか」「そうするとどうなる」を数例取り上げる。</p> <p>○挙げられた内容がボランティアかどうかで迷った時には、前時で学習した「ボランティアとは(自主性)(社会性)(相互理解)」に立ち返らせる。</p>
<p>3【見つける】</p> <p>班や全体での話し合いを通して、考えを深めたり、広げたりする。</p> <p>(20/35)</p>	<p>(グループ交流)</p> <p>T12 お互いに考えたことを、班で紹介し合います。前回のまとめ「○○さんから学んだ大事なこと」をもとに、お互いの考えを聞いて、感想を伝え合いましょう。</p> <p>C24 理科室や図工室で勉強した後に、机からはみ出ている椅子を戻すことができそうです。</p> <p>C25 いいね。時々片付け忘れていた椅子があるよね。</p> <p>C26 少しだけ出ているものあったよ。</p> <p>C27 次使う人のためにも、きれいにしておきたいよね。</p> <p>C28 私も休み時間のことで、廊下に落ちているごみを拾いたいと思います。</p> <p>C29 けっこう落ちているから、学校がきれいになるね。</p> <p>C30 でも、本当にできるかな。遊びに夢中になったり、急いだりしていると忘れてしまいそう。</p> <p>C31 今日やると決めたら、できると思う。</p>	<p>○自分たちにできそうなボランティアについて、考えを深めたり広めたりできるように、視点を与えて考えさせ、その内容を班と全体で交流させる。【手立て2】</p> <p>○机間巡視をしながら、全体で取り上げたい内容を把握する。</p>

	<p>(全体交流)</p> <p>T13 班の中で出されたアイデアをみんなで共有しましょう。</p> <p>C32 理科室や図工室で勉強した後に、机からはみ出ている椅子を戻したいと思います。</p> <p>C33 似ています。特別教室を使った後に、大きなゴミを拾ってから教室に戻りたいと思います。</p> <p>C34 みんなが使う教室だから、きれいにするのはとてもいいと思います。</p> <p>C35 掃除の時間に、隅々までていねいに掃除したいと思います。</p> <p>T14 隅々までていねいに掃除をするのはボランティアかな。</p> <p>C36 ていねいに掃除をするのは大事なことだけど、当たり前のような気がします。</p> <p>C37 でも、当たり前だけど、本当にきれいにしようという気持ちは大切だと思います。</p> <p>C38 だったら、細かい場所を決めて、「この場所をこんな風に掃除する」と決めるとボランティアっぽくなりそう。</p> <p>T15 いろいろなボランティアが出たけれど、結局みんなのできるボランティアってどのようなボランティアなのかな。</p> <p>C39 ○○さんみたいに、たくさんの人のためになることではないかもしれないけれど、クラスの人のためにはなるボランティア。</p> <p>C40 下学年のためになるボランティアも多い。</p> <p>C41 ゴミ拾いや掃除など、自分たちが使う場所をきれいにする活動も多いね。</p> <p>C42 どんな取組でも、相手が喜ぶ姿を考えながら、内容を工夫するとボランティアに近づくみたい。</p> <p>C43 大きなことではないけれど、普段の生活の中で意識をすることで、ちょっとした時にできるボランティアだ。</p> <p>C44 ちょっとボランティアだね。</p> <p>C45 ちょいボラだ。</p> <p>T16 普段の学校生活の中でできる、ちょっとしたボランティアならみんなにもできそうということだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【まとめ】</b> 自分たちには、大きなことはできなくても、ちょいボラならできる。</p> </div>	<p>○「どんな時」「何をやる」「そうするとどうなる」に分けて板書する。</p> <p>○ボランティアかどうかの明確な規定はないが、「やるべきことに一生懸命取り組む」のような意見が出たときには、T14のように投げかける。</p> <p>○T15の発問により、子どもの思考を整理し、共通点を考えることでまとめへとつなげる。</p> <p>○「ちょいボラ」という言葉が出なくても、子どもたちが考えた言葉でネーミングする。</p> <p>○子どもの言葉を生かしてまとめる。</p>
終末	T17 話し合ったことを生かして、「自分がこれからやろう	○自分に合った意思決



<p>4 【決める】 話し合ったことをもとに、自分に合った個人目標を意思決定する。 (10 / 45)</p>	<p>と思うボランティア」と「そのボランティアに決めた理由」をノートに書きましょう。</p> <p>T18 記入が終わった人から、友達と紹介し合いましょう。 (席を離れての意見交流)</p> <p>C46 私は、特別教室を使った後のゴミ拾いをします。このボランティアに決めた理由は、ゴミがなければ、次に使う人が気持ちよく勉強できると思うからです。このボランティアだったら、時間もそれほどかからないし、続けていけると思います。</p>	<p>定ができるように、振り返りの場面において、記述することを明確にした発問をする。</p> <p>【手立て3】</p> <p>○書き出せない子どもには、ノートに書いた自分の考えや黒板にある内容をもとに、話を聞きながら書き始められるように支援する。</p> <p>■これから自分が取り組んでいくボランティアを決めて、そのボランティアに決めた理由を考えることができる。(学活ノート)</p>
---	--	--

#### (4) 本時の評価

##### ① 評価方法

- ・学活ノートに記述した意思決定の内容とその理由をもとに評価する。

##### ② 評価規準

- ・これから自分が取り組んでいくボランティアを決めて、そのボランティアに決めた理由を考えることができる。

##### ③ B 評価の判断となる児童の記述例

- ・私は、特別教室を使った後のゴミ拾いをします。このボランティアに決めた理由は、ゴミがなければ、次に使う人が気持ちよく勉強できると思うからです。このボランティアだったら、時間もそれほどかからないし、続けていけると思います。

#### (5) 本時の板書計画

ボランティアから生まれる新しい自分

つかむ

○○さんの写真

自分たちにはどのようなボランティアができるだろうか？

自分たちには、大きなことはできなくても、ちよいボラならできる。

さぐる

見付ける

○○さんの行動のすばらしさ ・人のためになる行動 ・10年も続けている。 ・体の一部になっている。	<どんな時> ・そうじの時間	<何をするか> ・大きな汚れを水ぶき ・掲示物直し
<そうするとどうなる> ・教室がよりきれいになる ・安全 ・見た目がきれい		

子どもたちの考えを板書する。

・様々な場面で、いろいろなボランティアができることに気付かせ、考えを深めたり広げたりできるようにする。

決める

9

・自分がこれからやろうと思うボランティア

・そのボランティアに決めた理由

## 7 参考文献

- ・「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編」 平成 29 年 （文部科学省）
- ・「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」 平成 30 年 7 月  
（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」 平成 26 年 9 月  
（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・「心を伝えるボランティアの本 1～5」 光村教育図書 2002